



シンガポール

NCB 海外レポート

スマート・シティ「シンガポール」の都市風景⑪

～リスクリング先進国 シンガポールの取組み～

◇ はじめに

- ・ 日本ではここ数年、少子高齢化に伴う労働人口の減少やデジタルトランスフォーメーション（DX）への対応のため、社会人のリスクリング（学び直し）という言葉が浸透してきました。
- ・ 日本と同様の社会課題を抱えるシンガポールでは、2010年代より国を挙げたリスクリング「スキルズフューチャー運動（SkillsFuture Movement）」を推進してきました。本稿では、このスキルズフューチャー運動を中心に、リスクリング先進国であるシンガポールの生産性向上に向けた取組みを紹介します。

◇ シンガポールのリスクリング 「スキルズフューチャー運動」とは

- ・ スキルズフューチャー運動は、シンガポール国民の職業能力向上を支援する政府主導の取組みとして、2014年に開始されました。
- ・ シンガポール教育省傘下の機関であるスキルズフューチャー・シンガポールが、企業従業員、雇業者、学生、職業訓練機関等に対し様々なプログラムを提供しています。同機関のレポートによると、2022年には約56万人の個人と20,000社の企業がプログラムを利用しています。
- ・ スキルズフューチャー・シンガポールの主要プログラムの一つである「スキルズフューチャー・クレジット」は、25歳以上の全ての国民に対し、500シンガポールドル（約5万5千円）分のクレジットを支給する制度で、対象者はこのクレジットを利用して、教育・職業訓練機関が提供する学習講座を受講することができます。対象講座はデータアナリティクス、AI、脱炭素などの先端分野から財務会計、デザイン、語学等まで幅広く、対象講座数はなんと2万件以上にのぼります。
- ・ さらに、現在スキルズフューチャー・シンガポールが特に注力しているのが、40歳以上のミッドキャリア層向けのリスクリング支援で、新しい業界へ転職するためのスキル・知識習得に向けた約3か月～12か月間のトレーニングプログラムを拡充しており、最大で授業料の90%を助成しています。

◇ リスキルからリデザインへ ～更なる生産性向上に向けて～

- ・ リスキリングの他にも、シンガポールでは最近、「リデザイン（再設計）」というキーワードも街中で見かけるようになりました。
- ・ ここでいう「リデザイン」とは、企業全体の業務プロセスや人的配置を見直そう、というものです。
- ・ 政府はリデザインに取り組みたい企業に対し、1つの取組みにつき最大30,000シンガポールドル（約330万円）の助成金を用意し、専門のコンサルタントによる生産性向上の支援プログラムを実施しています。
- ・ 個人に対するリスクリング支援に留まらず、企業の生産性向上にも踏み込んだサポートを行うシンガポールの様々な施策は、今後の日本にとっても非常に参考になる点が多いものと感じています。



地下鉄駅内のリデザインに関する広告
撮影：シンガポール駐在員事務所

2024年2月16日作成

西日本シティ銀行シンガポール駐在員事務所